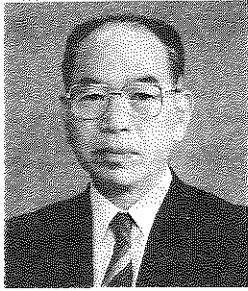


栃木県中学校長会報

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立陽南中学校
校長 横嶋 孝夫

世界の情勢がめまぐるしく変動する中で、日本も「21世紀に向けて創造的で活力ある社会をいかにつくっていくか、世界の一員として国際社会にどのように貢献していくべきか」というような大きな課題に直面しております。これらの課題にこたえていくためには、教育の果たす役割が大であり、私ども中学校長の責務も極めて重大であります。

このたびの教育改革で、これからの教育は、「自ら学ぶ意欲とか、思考力、判断力、表現力といった創造的な能力を目指す教育、豊かな個性をもって自己実現が図れる人間の育成を目指す教育へと重点を移すべきである」と述べております。

この新しい教育を着実に実践し、成果をあげていくために、当面する課題のいくつかについて、所信の一端を述べさせていただきます。

課題の第1は、選択履修幅の拡大についてであります。新学習指導要領の全面実施第2年目を迎え、平成6年度教育課程の編成に当たって、校内で論議された論点の第1が、2・3年生の選択学習ではなかったかと思えます。新しい学力観に立った学習指導として最も期待されているのが、選択学習の実践であります。

中学校段階では、個性の多様化が一層進むことを踏まえて、一人一人の生徒の特性に応じた、個性を生かす教育を充実させていかなければならないと考えております。

課題の第2は、学校週5日制に伴う休業土曜日の授業の振り替えの問題であります。全日中学校

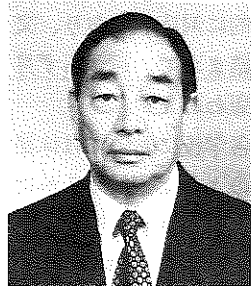
会では、月2回実施に積極的に対応しており、文部省も全国実験学校報告を踏まえて、遠からず月2回実施へ移行するものと思われます。

こうした背景をもとに、各学校においては休業土曜日の3時間の授業をどのように確保するかについて議論が高まったものと思います。先ず、学校週5日制の実施は「学力水準を低下させない」という前提があります。従って、標準時数を振り替えによって目に見える形で確保することが必要であります。振り替えによる学習負担増については、感じ方に当然個人差があることであります。放課後のゆとりの減少も多少懸念されますが、「学校・家庭・地域を一体とした教育全体の在り方を考え直し、望ましい人間形成を図る」ことをねらいとした趣旨を理解する必要があります。

課題の第3は、高校入学者選抜の問題であります。これまで業者テストに依存していたがために本来の進路指導を見失いがちであった中学校の進路指導を見直して、指導の転換を図ることが必要であります。そして、新しい学力観による入学者選抜の体制をつくっていくために、中学校としては、新しい学力についての評価観の確立とともに評価方法の開発に努め、選抜資料として耐え得る信頼性、客観性を高める努力をしなければならないと考えております。特に観点別学習状況の評価については、実践面で克服しなければならない課題が多々ありますが、各学校がこれを乗り越える努力をしない限り、新しい学力観は定着していかないし、偏差値による選択をたち切ることもできません。

以上申し上げましたことは、すでに先生方には考えられ、実践されつつあることと存じますが、今後とも、教育委員会をはじめ関係機関との連携を深め、これらの課題解決に努めるとともに、校長としての使命に徹し、一致協力して本県中学校教育の充実発展のために努力することを誓い合いたいと存じます。

心豊かな人間の育成



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立姿川中学校
校長 海老原 和美

新学習指導要領の全面
実施に入り、生徒の個性
の多様化に適切に対応す

るため選択履修の幅を拡大したり各教科の授業時
数についても、基準の弾力化が図られ、各学校に
おける創意ある取り組みが期待されている。

選択教科の幅の拡大や内容の充実については、
各学校でも創意工夫をしながら、実施している
と思われるが、学校の実情は厳しく、本校でも生徒
の要望・期待に応えるまでには至っていない。

本校の3年選択家庭科では、内容を大きく保育
と調理に分け、保育については学校近くの保育園
の協力を得て、そのカリキュラムに合わせた保育
実習を行っている。昨年は男女34名の生徒が選
択し、リズム遊び・コーナー保育・おたのしみ会
等多彩な活動に積極的に参加している。

卒業前、園長から生徒一人一人に、心のこも
った礼状がきたので、その一部を紹介したい。

「中学生の皆さんと交流を持って3年が過ぎま
した。皆さんは一応勉強科目で当園児と交流を持
ちましたが、それを越えた温かい人間関係が生じ
皆さんが園児と過ごしているときの表情は誠に優
しく、賢く、清らかに感じます。……人間の最大
の興味は人です。こうして幼子と接することによ
って愛情・親切・思いやり・世話・相手の気持ちな
ど実践を通して理解をさらに深めることができた
ことと思います。……」

この交流学習も3年を経過し、しだいに定着し
つつある。これからも未来展望を示しながら、足
もとの問題を解決していくという、学校経営の基
本にたって努力していきたい。

教育改革は教える人づくりから



栃木県中学校長会副会長
大田原市立若草中学校
校長 青柳 學

新教育課程実施2年目
を迎えたわけだが、今ま
でにないほど校長として

のリーダーシップが要求されているのを痛感して
いる。

教育改革が行われてから学校ばかりでなく、地
域社会が中学校教育に寄せる期待が大ききもの
がある。1学期末に保護者会と授業参観を実施した
が、全体会である保護者が次のような発言をした。
「新しい学力観に立った授業とは、前とどこがど
うかわったのですか。きょうの授業を見せていた
だきましたが、以前とあまり変わったところがな
かったように思います。」

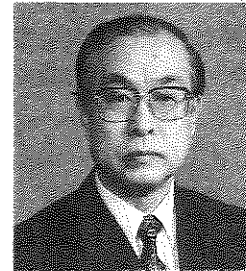
確かに改訂学習指導要領の趣旨を授業の中でど
う生かすか、教師がどう生かそうとしているのか
難しい実践的課題であると感じた次第である。

教育改革の内容や新学力観とか授業力を高める
等の校内研修は数多く聞かれているが、そのと
り実践化されているとは限らず、教師一人ひとり
の意識改革がなくては実現しないだろう。そして
大切なことは、教師も人間である。意気に感じて
職責を全うできるような校長と教職員との人間関
係や職場づくりに校長がどれだけ努力しているか
であると考えます。

私が仕えたある先輩校長は、部下にやる気を起
こさせるため一度は必ず家庭訪問をした。時には
酒を酌み交わしながら家庭と教育談義や世間話を
し、その人の家庭を知り、家庭における立場を理
解し、また協力してもらう。「人を動かすには、
まず家庭を知れ」とよく言っていた。

「意気に感じて仕事をする」という教職員を一
人でも多く育てるのが、校長の使命であると肝に
銘じた。

退任にあたって



前栃木県中学校長会
前宇都宮市立旭中学校
校長 鈴木 基 司

平成5年度の会長とし
て、皆様の絶大なるご支
援ご協力をいただき、大
過なくその責をはたすことができましたことに厚
くお礼を申し上げます。

昨年は、教育改革元年として教育課程の完全実
施をはじめ、新学力観、選択履修、さらに学校週
5日制、進路指導、そして、不登校生徒の問題等
試練に立たされ苦悩の連続ではありましたが、皆
様と共に真正面から取り組んだ1年間でした。

中でも「進路指導」につきましては、地域性や
学校の実態もあってむずかしい問題でしたが、各
校で教育改革への中心課題として捉えていただき、
「生徒一人一人の個性を生かす進路指導」の推進

と共に、偏差値を用いない進路指導への転換に最
大のご努力をいただき、お陰をもちまして生徒や
保護者に喜びをもたらせることができたことと受けと
めております。

この間、個性を生かす高校教育の多様化、個性
化や入試制度の改善等を要請し、いくつかの改善
が見られました。

また、全国に先がけての試みであり長年の懸案
でもありました私立高校調査書の統一や中学校文
化連盟の結成等大きな前進がみられ、喜びを深め
ることができました。これもひとえに校長会の一
致した取り組みの賜でありまして、深く感謝申し
上げます。

「教育は人なり」といわれますが、この重みを
学校経営に生かされ、「学びがいのある学校」を
つくり、生涯学習への基礎づくりにご尽力いただ
ければ幸いです。

終わりに、中学校教育のますますの充実発展を
祈念申し上げ、退任の挨拶といたします。

平成6年度 各専門部活動計画

☒ 調査部

部長 古橋 正好(河・上河内中)

1 役員を選出と事業計画の作成

平成6年6月3日、栃木県教育会館において
県中学校長会専門部会が開催され、本年度の組
織及び事業計画を協議し、次のように決定しま
した。

(1) 役員

部長 古橋 正好(河・上河内中)

副部長 山本 敬子(宇・宮の原中)

〃 大橋 寛(上・鹿沼東中)

(2) 事業計画

ア 全日本中校長会教育情報部との共同調査

である「中学校教育に関する調査」の実施

イ 県中学校長会及び各専門部活動に必要な

調査と資料、情報の提供

ウ 他都道府県中学校長会及び各教育関係団

体との連携協力並びに資料、情報の交換

エ 各種調査結果及び資料収集、情報の提供、

配布

2 「中学校教育に関する調査」について

この調査は、全日本中学校長会教育情報部よ
り依頼されたもので、6月中に実施いたしました。
調査にあたっては、県教委義務教育課並び
に高校教育課にそれぞれの資料の提供をお願い
し、ご協力をたまわりました。

なお、調査項目中、担当教科数や教育課程実
施内容等については、県下全中学校の悉皆調査
を必要とするため、本調査部員を通じ各中学校
長の皆様にご協力をお願いいたしました。また、
集計については、各地区の調査部の校長先生方
にお骨折りをおかけいたしました。厚く感謝申
し上げます。

本調査は、冊子にまとめられ、後日全日中よ
り刊行される予定になっております。

3 教育課題等に関する調査研究について

今後、県下全中学校または校長対象の教育課
題等に関する調査研究等については、必要に応
じて検討し対応していくことにしております。

☒ 研修部

部長 間 宵 博 (宇・陽西中)

1 第1回研修部会

平成6年6月20日(月) 教育会館

(1) 平成6年度役員

部長 間 宵 博 (宇・陽西中)

副部長 豊 田 實 (塩・氏家中)

" 渡 辺 紘 夫 (小・乙女中)

(2) 今年度の研究活動

ア. 主 題 心豊かでたくましい日本人を育てる
中学校教育(継続)

イ. 副主題 個性を生かす教育の推進と学校週5日制推進の実践的研究

(3) 研修部活動計画

第16回栃木県中学校長会研究大会に関して

・期日 平成6年9月8日(木)

・会場 栃木県子ども総合科学館

・内容 <午前> 全体会(研究発表)・分科会

① 生きる力を育てる進路指導—自らの生き方を考え、主体的に進路を選択する能力を育てる指導の在り方 (宇河地区)

② 平成4.5.6年度社会の変化に対応した学校運営等に関する調査研究報告(安佐地区)

③ 地域の実態に即した望ましい進路指導—校長としての役割と課題—(南那須地区)
<午後> 講演会

・演題 「個性を育て、自己実現を目指す進路指導」—学校経営と校長の役割—

・講師 千葉大学名誉教授 坂本 昇一先生

2 第2回研修部会

平成6年7月18日(月) 県学生協会議室

(1) 第16回栃木県中学校長会研究大会について

・3地区発表の研究内容

・大会日程の細部計画と役割分担

(2) 研究収録編集の基本計画の検討

3 第3回研修部会

平成6年8月18日(木) 県学生協会議室

(1) 第16回大会にかかわる諸準備

(2) 研究収録第17集の編集計画の策定

☒ 編集部

部長 千 本 文 雄 (宇・泉が丘中)

平成6年6月3日(金)、県教育会館において編集部会を開き協議した結果、次のように役員を決定し、事業計画を構想いたしました。

1 平成6年度役員

部長 千 本 文 雄 (宇・泉が丘中)

副部長 高 久 邦 夫 (河・古里中)

" 高 田 勝 弘 (塩・北高根沢中)

2 平成6年度会報発行の構想

ア 会報は年2回発行する。(81・82号)

・内容はほぼ従来どおりとする。

・「地区だより」については、「活動計画」「活動結果」を報告する地区が、固定しないよう年度ごとに入れ換えをする。

・後期号(82号)に、専門部の活動結果の報告を掲載する。

イ 発行予定日

第81号 平成6年9月1日

第82号 平成7年2月1日

ウ 各号の内容

〔第81号〕役員所感、専門部の活動計画、関東甲信越(群馬)大会報告、退任にあたって(前会長)、新任校長の一言、地区だより、私の朝会訓話、お知らせ(本県で開催される関プロ大会等の案内を主としていたが、平成6年度に、生徒の文化活動の振興発展を期して、中学校文化連盟が設立されたので、その概要を掲載する)〔第82号〕役員所感、専門部活動報告、全日中大会報告、研究学校報告、地区だより、海外教育事情報告

3 次回編集部会

ア 平成6年11月25日(金)

イ 議題 会報第82号の内容、執筆者人選等

4 その他

81号、82号とも12ページにする予定である。

☒ 職員対策部

副部長 卷 島 秀 世 (栃・栃木東中)

平成6年6月3日(金)、県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を決定しました。その後、6月30日(木)に部長の大塚一之校長先生が教育長就任にともないご退職されましたので、前任者と副部長と協議し、後任の部長を選出しました。ご了承ください。

1 役員

部長 前任 大 塚 一 之 (宇・陽北中)

後任 大 出 廣 志 (宇・陽北中)

副部長 太 田 統 (那・高久中)

" 卷 島 秀 世 (栃・栃木東中)

2 事業計画

講 話 「退職後の生活設計」

期 日 平成6年12月2日(金)(予定)

場 所 県教育会館

講 師 県教委福利課長、各係長他

3 研修内容

—退職と退職後の課題—

(1) 医療保険について

・退職後の医療について

・任意継続組合員制度

・継続療養制度 等

(2) 退職手当について

・退職手当の種類

・退職手当の計算

・各種課税 等

(3) 年金制度の概要について

・年金の種類

・退職共済年金の内容と仕組み

・退職共済年金の支給 等

※ 講話「退職後の生活設計」については、福利厚生部と共催の予定です。

☒ 進路対策部

部長 霧 見 徹 也 (宇・星が丘中)

平成6年6月3日(金) 栃木県教育会館で行われた専門部会、本年度の組織及び事業計画について協議し、次のように決定した。

1. 役員 部長 霧見 徹也 (宇・星が丘中)

副部長 片柳 達 (安・葛生中)

" 長谷川 巻 夫 (塩・喜連川中)

2. 本年度の事業

昨年度の課題を受け、①生徒の進路指導をどのように進めていくか ②高校入試制度改善に関してどのような要望をしていくか ③高校教育制度改善に関してどのような要望をしていくかを主な内容として、活動を進める。

(1) 第1回研修会

ア 期日 平成6年6月30日(水)

イ 場所 栃木県教育会館

ウ 内容 次に掲げる項目についてアンケートの結果を基に検討する。

・中学校における適正な進路指導の在り方

・新しいタイプの学校や学科の導入(単位制高校、総合学科、学校間連携)

・普通科、職業学科等の在り方

・新しい専門学科設置の方向

・募集定数の在り方

・選抜方法の多様化等の在り方

・入試の実施方法、日程等の在り方

・定時制、通信制等の在り方

・私立高の入学選抜の在り方 等

(2) 第2回研修会

ア 期日 平成6年9月22日(木)(予定)

イ 場所 栃木県教育会館

ウ 内容 県立高校の入試及び教育制度等の改善・その他について

(3) 第3回研修会

ア 期日 平成6年11月(予定)

イ 場所 栃木県教育会館

ウ 内容 県立高校入試制度改善について

☒ 修学旅行部

部長 渡邊 敏夫 (宇・豊郷中)

本会は学習指導要領に示される特別活動(旅行・集団宿泊的行事)の主旨に基づき、生徒が自主的、実践的な活動を通して主体的に学ぶ態度や能力の育成と集団活動による学習課題への取組み等が達成されるよう援助をするための調査研究、情報提供など学校現場での指導をバックアップする役目を果たしてきております。しかし本会のこのような事業はその組織の持つ性質上本県独自では成し得ぬ部分が多く、他県との連携により実現可能な状況下にあります。各中学校が安全かつ快適な修学旅行を実施できるよう関東5県の校長会の組織がいわゆる「関修委」ですが、この組織が現在の修学旅行を支えているとも言えるわけであり、その活動の一部を挙げてみますと、各地旅館組合、JR等関係機関との折衝、文部、大蔵省への陳情活動、東海道新幹線の団体輸送列車の確保等々広範囲に涉っております。

昨今、本県においてもこの「関修委」の加盟校が減少している傾向がありますが、その理由が実施期日の不都合ということだけであることが判明しており、他の特典のあることが周知されていないことが分かりました。そこで本稿では加盟による生徒の受益について述べ各校のご理解をいただきたいと考えます。

まず第一には特急料金が50%割引になっていること、これは引率教員にも適用されています。

輸送専用列車が2年前に設定され、学校行事の組み方も早くできるとともに生徒の事前計画も容易に立てられる点があります。また文部・大蔵省からの就学援助生に多額の補助金が交付されている点も是非知っておいていただきたいことです。

最後になりますが、平成6年度は全国修学旅行研究大会が本県で開催されるわけですが、関修委、東海・近畿修委全体の役割が栃木県の担当となりますので、この点についても本県校長会の活動の一部分を占めることとなりますのでご支援ご助力をお願いいたします。

☒ 福利厚生部

部長 橋本 好雄 (宇・瑞穂野中)

平成6年6月3日(金)の部会において、本年度の正・副部長並びに事業計画を次のとおり決定しました。

1 正・副部長

部長 橋本 好雄 (宇・瑞穂野中)

副部長 加藤 興士夫 (那・湯津上中)

〃 芝崎 勝 (足・毛野中)

2 事業計画

(1) 第1回部会研修会 平6.6.3教育会館

ア. 役員選出

イ. 事業計画作成とその推進

(2) 第2回部会研修会 平6.9.3尚徳会館

「生徒手帳」編集会議

(3) 第3回部会研修会 平6.12.2教育会館

講話「退職後の生活設計」

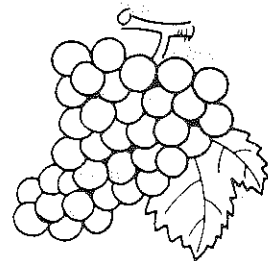
講師 県教委 福利課職員

※ 職員対策部と共催事業

(4) 第4回部会研修会 平7.1.14尚徳会館

「中学生の安全」「新しい道」編集会議

本年度の事業反省と次年度計画について



☒ 生徒指導部

部長 中里 三男 (宇・陽東中)

平成6年6月3日(金)県教育会館において専門部研修会を開き、本年度の役員及び事業計画を次のとおり決定した。

1 役員

部長 中里 三男 (宇・陽東中)

副部長 塩田 富夫 (栃・栃木西中)

〃 石塚 更生 (那・那須中)

2 事業計画の概要

(1) 第1回部会研修会 於・県教育会館

ア. 期 日 平成6年6月3日(金)

イ. 役員選出 上記の役員のとおり

ウ. 研究課題 『登校拒否等学校不適応生徒への対応について』

この課題は前年度と同様、全日中の「活動の重点」及び県中学校長会の「重点目標」の中から取り上げて取り組んでいく。

エ. 研究の方向

① 前年度と同様、登校拒否の特徴を3段階に分け、初歩的段階(「学校へ行きたくない」という心境になる段階)の要因を生み出さないための『居がいのある学校づくり』の取り組みをしていく。

② 文部省調査の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、「いじめ」や「けんか」が増加の傾向にあるので、本年度はこれらのいさかいを「生まない」「起こさない」「許さない」といった取り組みも加えて実践例の情報交換をしていく。

③ いきいき栃木っ子3あい運動(学びあい 喜びあい はげましあおう)の積極的な実践につながるものもよい。

(2) 事業のまとめと活用

地域として取り組んでいる実践例、または顕著に取り組んでいる学校の実践例等を平成6年12月上旬までに提出してもらい、全県の形でまとめる。

第46回関東甲信越地区中学校長研究協議会群馬大会に参加して

提案者 橋本好雄 (宇・瑞穂野中)

◇6月8日(木)13:30~前橋市 ロイヤルホテル (分科会の司会者・提案者打ち合わせ)

主として、提案内容・共通協議題・質疑のポイント等について確認がなされた。

◇6月9日(木)9:45~前橋市 市民文化会館 (開会式)

1. あいさつ

細谷啓介 大会委員長

2. 祝辞

小寺弘之 群馬県知事

唐沢太市 群馬県教育長

3. 歓迎のあいさつ

藤嶋清多 前橋市長

(文部省説明) 文部省初等中等教育局

中学校課長 河上恭雄先生

中学校教育における諸問題

- 1. 学習指導要領について
2. 生徒指導について
3. 進路指導と高校改革について
4. 学校週5日制について
5. 教職員定数について
6. 児童の権利に関する条約について
7. 国旗・国歌について

(全体協議)省略

大ホールに関東甲信越地区から1200名の参加者があり盛大であった。

(分科会協議)第4分科会13:10~前橋テルサ 協議題 生きる力を育てる進路指導

・小中高校の連携による進路指導の在り方

・進路指導主事の位置づけと機能について

150名の参加者のもとで、実践にもとづいた研究発表であり、活発な討議が行われ有意義な研修会であった。

◇6月10日(金)9:30~前橋市 市民文化会館 (協議)(講演)省略

自然と詩情豊かな前橋が思い出深いものとなった。

新任校長の一言

初心にかえって

宇都宮市立城山中学校長

岩上良明

修学旅行で京都に向かう車中でのこと、私の隣の空いていた席に一人の男子生徒がすっと座りこんで来て、「先生、少し話をしようよ。校長先生とはめったに話すことなんかできないからね。」

ハッとした。4月に着任以来、儀式等で訓辞や講話をすることはあっても、直接顔を合わせて語り合うことは殆んどなかったと言ってよい。朝夕登下校時のあいさつなどはこちらから進んで声をかけているが、じっくりと語り合う時間を持ちたい。駆け出し当時の気持ちを忘れないことだ。

新任校長として驚いたことは、会合の多さとあいさつだ。連日連夜続くこともある。人前での堅苦しいあいさつや夜の宴会の不得手な私にとっては全く難行苦行だ。あまり数多く続くと、あいさつも惰性に流れ、粗末な内容のものになりやすい。心しなければならぬ。校内校外を問わず、その会合の趣旨やねらいを理解し、誠意をもってあいさつをしたい。それが一校を時には地域社会を代表している校長の責務である。そして、人と接するに「謙虚」の2文字を忘れないでいたい。

古巣にもどって

栃木市立寺尾中学校長

佐山臣男

思いもかけず、23年目に古巣に赴任した。かつての教え子たちも40歳代を迎え、PTAの中心的存在で活躍していることに力強さを覚えた。また、現在の自分を育ててくださった地元に住む先輩や土地の方々に感謝しつつあいさつに伺うと一様に歓迎と協力の意を表してくださり、改めて胸を熱くしたものである。

赴任校は6学級、15名の職員で構成され、小規模独特の家庭的雰囲気の中で生活できることに感謝している。

そんな中であって、年度始めには、学校経営方

針の第1に、温かい人間関係を大切に、組織力を生かして教育活動に取り組むよう職員に呼びかけた。不登校生徒の増加傾向にある情勢の中で、同じことを生徒にも求めた。職員も生徒も楽しく生活できるよう願っている。

一方、家庭や地域の教育力を生かした教育が求められている中、知人やかつての教え子たちに甘えることなく、協力を仰ぎつつ教育目標達成のために職員一同力を合わせていこうと心がけている。

「躍動」の学校経営具現化へ

藤岡町立藤岡第二中学校長

片柳博

4月赴任早々校庭一巡の際、正門の端に昭和62年度卒業生の記念碑に躍動！躍進！という文字が刻まれている。私は躍動という言葉には常々強い関心を持ち、教育活動においてその具現化を図りたいと考えていた。たまたま、新任校長研修において県教育委員会教育長さんからいただいたご講話の中で、おはようという言葉には躍動というすばらしい意味を持ち、その他様々な教育的意義のあることを拝聴し、深い感銘を覚えた。とりわけすき通った勢いという点では学校経営に是非とも生かしていきたいと痛感した。

これからの生徒が自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力が育成される基盤づくりのためには、日々の実践活動の中で意欲・やる気を育てる必要がある。その意味では、あいさつは生徒のみずみずしさや若さのエネルギーを感じる。いまは、職員共々学校活性化に向け、従来からの学校体制づくりを継続し努力を重ねているので、すがすがしいあいさつが聞える。さらに心のすき通った勢いや主体的な現れを期待し邁進したい。

新しい学力観と学校週5日制

烏山町立七合中学校長

大谷恵一

今や、学校教育の緊急課題は新しい学力観に立つ教育の具現と定着であります。

生徒が内発的な学習意欲をもち主体的な思考力

地区だより

今年度の研修計画の概要

河内地区

今年度は、南河内町立第二中学校の開校により会員が9名となり、新会員3名を迎えて一段と充実した活動が期待されている。

研修活動は、地区独自の計画をはじめ、宇都宮地区との年4回の合同研修会、地区小学校長会との共同研修、河南河北別の視察研修等多様な研修が例年どおり計画されている。

本地区の研修としては、県中学校長会の重点目標を受け、次の2点を中核に研修を進めようとしている。

1. 学校週5日制の拡大に伴う教育課程の研究
平成4年度にスタートした学校週5日制も次年度から月2回実施の方向で検討が進められている。そこで、年度当初の実施が円滑に行えるような学校運営上の問題点と解決策を研究していく予定である。

2. 生きる力を育てる進路指導

9月の県中学校長会研究大会では、宇河地区が発表担当となり、明治中学校の野澤充校長が地区を代表して発表することになっている。そこで宇河地区10名の研究部員が中心となり、資料の収集や発表内容の検討を進めている。

研修活動について

芳賀地区

平成6年度の芳賀地区校長会は、新しく7名の校長を迎え、4月6日にスタートした。会長には、真岡中学校の軽部亨校長が選任された。会長から「一校の校長のために何ができるか、みんなで考え、支え合える校長会をめざそう。」との校長会としての基本姿勢が明示され了承された。

芳賀地区校長会は、1市5町18名の校長で組織し「学校経営上の課題を究明することをとおして、校長としての資質の向上を図る。」を目的に

や判断力・表現力・行動力等を有することを望ましい学力として捉えている。

学校現場では、生徒一人ひとりのよさや可能性を発揮させながら自己実現を図る教育推進のために基礎的・基本的内容の精選と指導方法や評価についての工夫・改善が進行中です。

しかし、学校週5日制の導入に伴い、行事の精選が話題となり新しい学力観の考えに逆行する発想ではないかと苦慮しているところです。

特別活動は、総合的な発展が期待される実践的・体験的な活動であり、自己決定の場を設定し、存在感や充実感を体験させることが自ら学ぶ力をつける新しい学力観であると考えます。

21世紀に向けて生涯学習社会を見据えた時、社会の変化は加速化が予想され、生徒の一人ひとりを生かす学習を仕組んで「学ぶ」意欲を喚起することが、これからの教育の姿ではないでしょうか。

新任の校長として

佐野市立吾妻中学校長

秋野勉

新任校長として、学校を経営する責任感と使命感、学校躍進の期待感をもって、着任しました。

設備の整った三階建ての鉄筋校舎、新しいプール、大きな体育館等々と手の行き届いた校舎・校庭回りの植えこみ、学校近くには梨や桃の花が咲く環境に恵まれている学校であります。

更に、吾妻地区四町内の保護者・地域住民の温かい援助と、協力を惜しまない積極的な姿勢が依然として存在しております。このように恵まれた地域や学校で生活する生徒はとても幸せであり、「すくすく」「明るく」「元気で」「根性のある」生徒が育っていくものと、確信しております。

職員室・教室・校庭等では、一人ひとりの生徒を大切にしようと、仕事に取り組み、熱心に指導する先生方の姿があります。意欲的な熱意に満ちた先生方の指導により、自ら学ぶ意欲、社会の変化に主体的に対応できる能力、基礎・基本の習得、個性の伸長が図られるものと思っております。

教育目標の達成を目指し、生徒一人ひとりに居甲斐性のある学校づくりに努力したいと思います。

研究協議を進めている。

その研修課題と提案者は下記のとおりである。

月	研 修 課 題	提案者
5	進路指導～自己実現への道程	武 田
7	職員指導～自己の責務の遂行	浅 香
9	特色ある学校づくり～組織・運営	小 倉
11	地域探訪	菊 池
12	5日制時代の教育課程の実施	関 沢
3	研修のまとめ	事務局

研修計画の概要

塩谷地区

土屋佳雄会長（矢板中）を筆頭に、4名の新会員を含めた総勢10名の本地区は、家族的な雰囲気の中にもお互いに切磋琢磨しながら学校経営に励み、地区の教育力向上に努力している。

本年度の努力目標として次の4点を掲げた。

- ・ 人間性豊かな生徒の育成を目指し、中学校教育の活性化を図る。
- ・ 県中学校長会との緊密な連携を図り、学校運営上の課題を究明する。
- ・ 中学校教育の現状及び動向を的確に把握し、課題の解決に努める。
- ・ 教育関係機関・諸団体との連携を図り、適切な対策活動を展開する。

活動内容として、年7回の研修計画の中に、研修活動としては、創意ある教育課程の編成と実施を中核とした。また、適切な進路選択の指導の在り方を地区の特色として色濃く滲み出るものとして研修を深めていくことにしている。

対策活動としては、各市町教育委員会教育長と中学校教育の諸問題懇談会を開催して、教育諸条件の整備や教職員の勤務意欲の高揚について話し合い、ともに伸びようと鋭意努力している。

本年度の研修活動の概要

南那須地区

本年度南那須地区中学校長会は、3名の新会員

を迎え8名の会員で構成され、高田博会長（境中学校長）を中心に、研究主題に関連する学校経営上の課題について研修を進めている。

昨年度の研究課題は、新しい教育観に基づく授業への取り組み、業者テスト廃止に対する各校の対応等を取り上げ、検討し研修を進めてきた。

本年度は、今までの研究成果を基盤として、次に掲げる課題の研修を推進する。

- (1) 地域に根ざした進路指導の在り方——具体的実践例を通して——
- (2) 個性を生かす教育の推進——学校経営の立場から——
- (3) 学校週5日制の段階的实施に伴う実践的研究

本地区では、小中学校長会と連携をもちながら研修を進めており、全体研修発表会、研修視察、4町それぞれの研修会、懇親会等が実施され、互いに学校経営の在り方・方法・諸問題等が話し合える機会がもたれ、お互いの意思の疎通を図っている。

今年度の研修と事業

安佐地区

平成6年度、4名の新会員を迎えた安佐地区中学校長会では、研修テーマを「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育」とし、研修内容を (1) 創意ある教育課程編成の改善・工夫…学校週5日制への対応も含めて… (2) 個性を生かす評価の工夫 (3) 個に応じた進路指導の在り方の3点に絞り、各校の実践に基づいた研修を進めている。特に、昨今、学校週5日制月2回実施の動きもあり、今年度当初各学校が創意・工夫した教育課程の具体例をもとに意見を交換し、次年度以降に参考にすべく、意義ある研修である。

さらに、新学習指導要領と学校週5日制の趣旨を踏まえた学習指導と評価の適切な実践を図るべく、校長会を中心に1教科ごと3～6名の研究員を委嘱し「観点別学習状況評価基準」の作成に取り組んでいる。完成は7年度初め、その完成が期待されている。また、恒例となった足利地区中学

校長会との研修・懇談会も過日実施し、強い絆と会員相互の親睦を深めている。

研修活動の概要

足利地区

本地区は11名の会員で構成され、桶井会長（坂西中）を中心に「創意ある教育課程の編成・実施と個性を生かす教育の推進」を研修テーマに、次に掲げるような活動を計画している。

- (1) 研修テーマに沿った研修
2回の予定を立て、各学校での実践や校長個人の考え等をもとに紙上発表するとともに、まとめとして、先進校の実情を11月に調査する。

私の朝会訓話

高根沢町立北高根沢中学校長 高田 勝 弘

子らがみな 本気でやる木に 見守られ
北中の 師弟ともども 響く石
友がらが 心心亭で 語り合い
よく人はいいです。死ぬ気になってやればとか本気になってやれば出来ないことはない。後悔先に立たずとか、あの時もっと本気になってやればなあ。今燃えなくていつ燃えると言いつつ燃えませんが、これも本気で集中してやる気に通じます。校門脇のモチノキを「本気でやる木」と名付けました。

教室から道徳の時間でしょうか、先生と生徒、生徒同士のやりとりが聞こえてきます。先生のこんな人間になってもらいたい、こんな生徒になってもらいたいという願いが、みなさんに共感されて互いに心の交流がなされています。保健室前に置かれている大きな石を「響きの石」と呼んでいます。どっしりとした大きな石には落ち着きを感じられ、この石を眺める度に安定した気持ちになれるから不思議です。

「心心亭」が完成しました。PTA役員さんと先生方が共同で作った手作りの「対話と協調」の広場に、野外教室が出来たのです。以心伝心から心心亭と名付けましたが、先生の気持ちが生徒に伝わり先生もともに伸びようという願いが込められています。また、親の気持ちを子どもが理解して感謝する。さらに生徒同士が互いに友情を深め合って、生涯北中で学んだという絆を強く結び合ってほしいと思います。日本庭園風のすばらしい環境の中で、動的環境としていろいろな場面で活用して、いこいの場所としてあるいは心を許し合って、何でも言い合える雰囲気づくりに役立ててほしいと思います。

北中心の教育3点セットとして、心のよりどころ、自分を見つめ直す場あるいは未来への決意の場として、大いに活用するとともに北中名物として今後伝えていきたいと思っています。

栃木県中学校文化連盟の発足と 今後の活動の方向

会 長 中里 三男 (宇・陽東中)

県中文連(略称)が本年度発足いたしました。長い間、中学生の文化活動の振興・発展に情熱を傾けてきた先輩校長先生や関係の諸先生方の熱意が実ったものであると心から喜んでいます。

発足に至るまでは、主として平成5年度の県中学校長会、県中学校教育研究会の代表の方々が中文連準備委員会を設けて幾度も協議を積み重ねてこられました。また、発足してから軌道に乗るまで、本年度の県中学校長会、県中学校教育研究会の代表の方々がリードして下さいました。

今後は、中文連の規約に掲げてあるように生徒の文化活動及び文化活動参加への援助等に尽力して参ります。大きな課題は、①各市町村に中文連の支部組織を設けること ②法令外負担金並びに補助金の援助が受けられるよう努めることです。どうぞ深いご理解とご協力をお願いいたします。

お知らせ

関東甲信越静

統計教育研究栃木大会のご案内

実行副委員長 大出 廣志 (宇・陽北中)

第31回統計教育研究栃木大会が宇都宮市において開催されることになり、着々と準備日程に従って、栃小・中教研統計部会が中心となって研究及び運営面が推進されて来ました。栃木大会を盛大かつ実りあるものにしたいと考え、努力しております。各小中学校、他の学校におきましてもよろしくご協力・ご支援の程をお願い申し上げます。

・大会主題「情報化社会に生きる能力を育てる統計教育」—新学力観における統計情報の活用能力の育成をめざして—

- ・期日 平成6年10月27日(木)・28日(金)
- ・会場 小学校 宇都宮市立五代小学校
中学校 宇都宮市立若松原中学校
- ・内容 第1日 公開授業・開会式・分科会
第2日 講演会・閉会式

演題 「統計と統計教育教材の指導」

講師 豊田短期大学教授(元宇都宮大学教授)

朝倉隆太郎先生

第44回関東都県算数・数学教育研究大会 栃木県(宇都宮)大会のご案内

栃中教研数学部会長

轟 見 徹 也 (宇・星が丘中)

- 1 主催 栃木県数学教育会 ほか
 - 2 共催 栃木県教育委員会 栃木県市町村教育委員会連合会 宇都宮市教育委員会 ほか
 - 3 期日 平成6年10月13日(木)・14日(金)
 - 4 日程・会場(中学校の場合)
- | | 9:00 | 12:00 | 13:30 | 16:00 |
|------------|--------------------|-------|--------------------|-------|
| 13日
(木) | 全体会・講演
宇都宮市文化会館 | | 授業・分科会Ⅰ
宇・陽南中学校 | |
| 14日
(金) | 分科会Ⅱ
県総合教育センター | | (講演)東大
長谷川哲夫氏 | |
- 5 参加者等 茨城、静岡、群馬、東京、千葉、埼玉、山梨、神奈川、長野、栃木の各都県の小・中・高・大の教員多数
 - 6 授業・分科会 公開授業5学級、分科会9部門を設け、研究協議をする。

第11回全国修学旅行研究大会について

栃木県中学校長会修学旅行部会長

渡 邊 敏 夫 (宇・豊郷中)

表記大会の開催に当りその意義内容等をお知らせし、皆様の深いご理解とご支援、ご指導を賜りたく存じます。さて、現今、21世紀に向う展望に立つ中学教育の在り方が問われる中で、修学旅行での体験は生徒の自主的、実践的態度の育成など教育的意義は多大であると思われれます。本大会は、その視点からも学校現場の実践に基づく発表であり、各学校における実践に対しても大きな示唆を与えうるものと確信しております。また関東地区のみならず東海地区、近畿地区を含む全国大会ですので多数の参加を期待しています。

以下、大会の概要を列記し参考に供します。

1. 名称 第11回全国修学旅行研究大会
2. 日時 平成6年10月28日(金) 12:30~16:30
3. 主題 「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」
4. 発表者 田上教諭(市貝中) 古田教諭(豊郷中)
5. 会場 プラザイン・くろかみ